

学生としての現状と卒業後の私

河野 陽平

日本文理大学医療専門学校 臨床検査学科 3年

4月に発生しました熊本および大分を震源とする地震により被災された皆さま、またそのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。本校所在地の大分市内はさほど大きな被害はありませんでした。ご心配頂きありがとうございました。

【はじめに】

私は、鹿児島県奄美大島出身で、現在、日本文理大学医療専門学校で臨床検査技師を目指し、勉強しています。私は、家族が医療系の仕事をしていることから、なんとなく将来は白衣を着る仕事に就きたいと考えていました。自分の将来を考える時期となり、中学での職業体験学習で「医療系」を選択し、病院での仕事を体験する機会がありました。その際に、「臨床検査技師」という職業を知り、病気の治療に重要な役割を果たすことなどを学びました。その後、たくさんの方々からのアドバイスも頂き、臨床検査技師の道へ進もうと決意し、進学しました。

【学校生活について】

入学してまず衝撃を受けた事は勉強量の多さと内容の深さでした。生体のシステムでは、とても多くの物質が存在すること、その物質が連動して動かなければ生命は維持できないことを知り、個々の物質の重要性もさることながら、相互作用の持つ力の重みを感じました。

また、本校には「学生会」という組織があり、私は1年生のころから所属しています。学生会の活動内容は、4月「新入生フレッシュマンセミナー」に同行し1泊2日新入生と過ごします。その中で、3年間の学校生活をどのように過ごせば良いかアドバイスしたり、大分県外から入学し、初めての一人暮らしの不安解消のため、自分達の経験談などを交え、話をしたりするグループミーティングを企画実行します。10月には、全在校生対象に「スポーツ大会」を企画運営します。クラスの団結や学年を超

えた助け合い、他の2学科との対抗戦では学科内での連携などが生まれます。他にも挨拶運動や今回の地震では義援金集めなど

の活動をしています。私がこの活動で学んだ事、それは「連携し助け合う力の強さ」です。

【卒業後の自分について】

私は、学習面はもちろんですが、学生会活動を通じて、人と人との連携の大切さ、有言実行の難しさ、相手の立場で物事を考えることの大切さなど沢山の事を学びました。この経験は、講義で学習した「チーム医療」に役立てることができるのではないかと考えています。臨床検査技師どうしの連携、他の医療職との連携、患者さんとの信頼関係の形成、臨床検査技師である前に「医療人」であることなど、将来どの分野で働くかは分かりませんが、私が学んだ事はどこでも役立つと考えています。今後、地元の県立大島病院で臨地実習をさせて頂きます。臨地実習において沢山の事を学びたいと思っています。

連絡先: 日本文理大学医療専門学校
臨床検査学科(担当教員・宮本)

097-524-2857